



## トピックス

### 総合周産期母子医療センター開設 17 周年を迎えて



明けましておめでとうございます。総合周産期母子医療センターが開設されて、満 17 年が経ちました。今年も、3 年ぶりに行動規制のない年末年始を迎えました。多くの方が休暇を楽しまれたと思います。一方、年始には山口県の 1 日の感染者数が 5,000 人を超えたという報道がありました。日本全体の規模で考えると、1 日に 50 万人の感染者が発生したという数になります。もうニュースにもなりません、多くの方が自宅療養しているにも関わらず病院は満床状態です。まだ第 8 波のピークにも達していないと思われませんが、すでに死亡者数は第 7 波を超えています。また今シーズンのインフルエンザの発生状況は、1 月 6 日に厚生労働省が発表した年末年始（12/26～1/1）の感染者数（全国のインフルエンザ指定医療機関からの報告数）が「9,768 件」で、前の週の「6,103 件」に比べ 1.6 倍に増加していました。これは前年同時期の 217 倍になります。昨シーズンは少なかったインフルエンザが、今シーズンは確実に広まって来ています。

新型コロナウイルス感染症が流行する以前でも、冬になるとインフルエンザが流行し、学級閉鎖などが行われていました。にもかかわらず行動制限や政府からのマスクの着用指導などは行われていませんでした。何故なのでしょう？ それは、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの取り扱いが、大きく異なるためです。新型コロナウイルス感染症は結核と同じ重症感染症（2 類）に分類されているため、社会的な脅威として隔離が行われ、医療費も公費（無料）となります。感染者数の報告も毎日行われます。一方、インフルエンザは一般の感染症（5 類）に分類されており、定点観測に基づき週に 1 回注意情報が出されます。治療も通常の健康保険が使用されます。しかし、新型コロナウイルス感染症の症状が総じて軽くなったので、隔離されなければならない重症感染症に分類されているにもかかわらず、経済を回すために行動制限はしません、どんどん旅行をしてください、となっているので医療が混乱しているのです。また、妊娠後期の妊婦さんは以前の報告から症状が重症化しやすいとして、危険度の高い状態として取り扱われています。このため満期になると原則入院となります。この時、特別な感染症病床に入院しているため、母体や胎児に異常事態が起こった際に、超緊急対応としての帝王切開ができない状況にあります。このため、山口県ではお母さんと赤ちゃんの安全を確保するために、分娩は原則として新生児科の先生も待機した十分に準備された状態での帝王切開が選択されています。新型コロナウイルス感染症が一般感染症（5 類）の扱いになるまでは、この対応が維持される予定です。政府が分類の見直しを検討している様ですが、もう少し時間がかかりそうです。妊婦さんにとっては不安な日々が続きますが、もう少し我慢してください。県立総合医療センターでは、今年も安心・安全な周産期医療を提供していきたいと思っております。

本年が、良い年となることを願っております。

総合周産期母子医療センター センター長 佐世 正勝



## マタニティレシゼ

山口県の郷土料理でもある『いとこ煮』。南瓜でよく作りますが、今回はさつまいもで作ってみました。食物繊維が多く、ポリフェノールやカリウムも豊富な一品です。



『いとこ煮』



### 材料（2 人分）

- ・乾燥あずき 20 g
- ・さつまいも 100 g
- ・砂糖 大さじ 1
- ・塩 少々



### 作り方

1. 乾燥あずきは沸騰するまで茹でて、茹で汁を捨てる。
2. 1 に新しい水（分量外）を入れて軟らかくなるまで 30 分程度煮る。
3. 軟らかくなったら砂糖と塩を加えて煮る。
4. さつまいもは硬めに下茹でておく。
5. 3 に 4 のさつまいもを合わせて味がなじむまで煮る。



【レシピ提供】栄養管理部



### センター稼働状況

分娩数	55 件	緊急帝王切開	11 件
母体搬送	1 件	NICU 稼働率	70.4%
新生児搬送	2 件	MFICU 稼働率	96.2%

（令和 4 年 12 月）

### 『今年の主役は「卯」』



### 編集後記

あけましておめでとうございます  
 本年もどうぞよろしく  
 お願いいたします  
 (K.F☆N.S☆Y.M☆K.H)



周産期センター  
 キャラクター  
 マミー&メイ